1 次の各々の関数の導関数を定義にしたがって求めよ.

a)
$$f(x) = \frac{1}{1+x^2}$$

$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{x}}$$

2 nが自然数であるとき、二項定理により

$$(x+h)^n = x^n + {}_{n}C_1x^{n-1}h + {}_{n}C_2x^{n-2}h^2 + \dots + {}_{n}C_{n-1}xh^{n-1} + h^n$$

である. これを用い、関数 $f(x) = x^n$ の導関数を定義にしたがって求めよ.

学籍番号:	氏名:

③ 2 つの関数 u=f(x) と v=g(x) の積として表される関数 y=f(x)g(x) の導関数を求めたい. いま, x の増分を $\Delta x=h$ とすると, u の増分 Δu と v の増分 Δv はそれぞれ, $\Delta u=f(x+h)-f(x)$, $\Delta v=g(x+h)-g(x)$ と表せる. したがって, $f(x+h)=f(x)+\Delta u$, $g(x+h)=g(x)+\Delta v$ と書けるので, y の増分は

$$\Delta y = f(x+h)g(x+h) - f(x)g(x) = (f(x) + \Delta u)(g(x) + \Delta v) - f(x)g(x)$$

$$=$$

となる. この両辺を割って, $\frac{\Delta y}{\Delta x} =$ となる. このとき,

$$\lim_{h \to 0} \frac{\Delta u \Delta v}{\Delta x} = \lim_{h \to 0} \frac{\Delta u}{\Delta x} \cdot \lim_{h \to 0} \Delta v = f'(x) \cdot 0 = 0$$

である。そこで, $\lim_{h\to 0}\frac{\Delta y}{\Delta x}=\left(f(x)g(x)\right)'$, $\lim_{h\to 0}\frac{\Delta u}{\Delta x}=f'(x)$, $\lim_{h\to 0}\frac{\Delta v}{\Delta x}=g'(x)$ と書き直し,積の微分公式

$$(f(x)g(x))' = \boxed{}$$

を得る.

4 積の微分公式を用いて次の関数を変数 x で微分せよ.

a)
$$f(x) = (x^2 + 3)(x^2 - 2x + 2)$$

 $f'(x) =$

b)
$$f(x) = (x^2 - x + 1)(x + 1)$$

 $f'(x) =$

⑤ f(x)g(x)h(x) = (f(x)g(x))h(x) であることと積の微分公式を用いて 3 つの関数の積の導関数 (f(x)g(x)h(x))' を求めよ.

6 関数 g(x) に対し、関数 $f(x) = \frac{1}{g(x)}$ の導関数を求めたい.

そこで、 $f(x)=\frac{1}{g(x)}$ の分母を払った式 f(x)g(x)=1 の両辺を微分すると、積の微分公式により

を得る. これを f'(x) について解き, さらに f(x) を $\frac{1}{g(x)}$ で置き換えて整理することにより, 次の公式を得る.

$$f'(x) = \left(\frac{1}{g(x)}\right)' = \boxed{}$$

[7] 問題6で得た公式において $g(x)=x^n$ とおくことにより, $\left(\frac{1}{x^n}\right)'$ を求め,なるべく簡単にせよ.

8 問題7の結果を負の数の指数を用いて表すことにより $(x^{-n})'$ を負の指数を用いた形で表せ.

9 $\frac{f(x)}{g(x)}=f(x) imes \frac{1}{g(x)}$ である。この右辺を積の微分公式を用いて微分し,問題6の微分公式を用いることにより,商の微分公式 $\left(\frac{f(x)}{g(x)}\right)'$ を求めよ.

10 次の関数を変数 x で微分せよ.

$$a) \quad f(x) = \frac{x-2}{x+3}$$

$$f'(x) =$$

b)
$$f(x) = \frac{x-5}{x^2+5}$$

$$f'(x) =$$

c)
$$f(x) = \frac{x}{x^2 - x + 1}$$

$$f'(x) =$$

d)
$$f(x) = \frac{x^4 + 3x - 2}{x^2}$$

$$f'(x) =$$